

奥鬼怒生物群集保護林

群集-3

管轄森林管理局・署	関東森林管理局 日光森林管理署
所在地	栃木県 日光市
面積	2,585.35ha
設定年	1993 (H5)年
保護林の概要 (設定目的)	オオシラビソ、シラビソ、トウヒ、コメツガなどからなる原生林的な亜高山帯植生の森林で、保護林の下部にはウラジロモミ、アスナロ、キタゴヨウ、クロベ、ブナ、ミズナラなどからなる自然林が一部に見られる。鬼怒沼湿原は日本で最も高標高(標高約2030m)に位置する湿原で、面積は13.4haである。ヤチスゲやヌマガヤが優占し、ミズゴケ類も豊富である。湿原にはイワカガミ、チングルマ、キンコウカ、タテヤマリンドウ、ワタスゲ、ツルコケモモなどが見られ、希少植物も多産する。湿原内には池塘が見られ、湿原周辺では矮小化したクロベやアスナロが生育する。このため、原生的な亜高山帯植生と日本で最も高標高に位置する高層湿原を主体とした地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するため設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	2012年、2017年、2023年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、オオシラビソ林、ダケカンバ林、シラビソ林、ウダイカンバ林に1地点ずつ計5か所の調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測および植生の種組成の概要を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。湿原内を通る木道沿いに1つの調査ラインが設定されており、木道上から目視による植生調査(ベルトランセクト)を実施した。
結果概要	いずれの調査プロットにおいてもニホンジカの被害が確認でき、前回調査と比較して林床植生の種数や量が減少している箇所もあった。その中で亜高山帯植生を構成する各群落の成木は健全に生育しており、良好な状態で維持されていると評価される。 鬼怒沼湿原については、シカの影響により攪乱が進み、裸地化や乾燥化が見られる状況である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。